



『材の表情、丸太の姿』

通年コース第十一・十二回開催報告「見学、枝打ち」

錦秋にはまだ少しはやいけれど、その紅葉の彩りに負けずとも劣らない色とりどりの表情を見せてくれる樹々の板。初日の午前中に伺った有賀建具店さんでは、

様々な色や木目・感触を持つ材や各種の家具作品。それらを作るための機械に囲まれて、しかもお茶やお菓子を御馳走になりました。親方の基本的にはどんな曲がり材



様々な色・目・感触

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 坂野慎治
題字 島崎洋路



姿を吟味

に四苦八苦しなからも、入札ではすべての楢が市場指値より高値で落札されまし

た。そして二日目は枝打ち。節は材のなかでどのようになっているのか。板や柱に節が出てくるのはどうしてか。丸太の輪切りを見たあと、チェーンソー製材で丸太を挽いてみると・・・なるほど、無節にするには枝打ちの丁寧さはもちろん時期も大事。枝打ちをするその一番大きな目的は、保科先生が言われた「付加価値をつけること。なので、中途半端な枝打ちはやらない方がまし、枝打ちは量より質で」ということになりました。とまれ、自作のぶり縄で、あるいはワントッチラダーやあぶみを使って木に登り、きれいに枝打ちされた林は、すつきりと美しい。

通年コース 第十一・十二回

10月13日(金) 見学

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。日程説明の後、早川講師の挨拶。

8時40分

早速、分乗して有賀建具店さんへ向かう。

9時10分

作品の展示された作業場で、これまた作品の様々な椅子に座って、親方の講義を受講。木材の調達方法や材見本を見ながらの木の特徴と用途の説明。

9時40分

奥様手作りのケーキと暖かいコーヒーを頂きながら、暫し休憩。ごちそうさまでした。

10時

講義再開。展示されている種々の作品に使われている木についても説明して頂く。

11時10分

乾燥の仕方や材の挽き方といった質疑応答。そして、空や自然塗料についての親方のお話し。

12時

有賀建具店さんで昼食。

13時

伊那木材センターへ向けて



チェーンソー製材で節を見ている

13時40分

センター着後、高見所長さんより、森林組合や市場の仕組み、最近の丸太市場、入札手順の講義を受ける。

14時15分

材見本の樹種名クイズ。見て・触って・匂いを調べて・・・。一番軽いのは・・・の匂いは・・・。

14時35分

直近の市況表を片手に、この日のために用意していた楢を、所長さんの説明を受けながら検分してゆく。曲がり・節・心材の色・





ロープアイ加工、まずは口差し



縄と手木で

15時 年輪幅…。

模擬入札開始 活発な商いのなか、比較的高値の落札となり、ありがとござい
ました。

15時35分

クイズの答えをお聞きして
見学を終える。

16時20分

小屋着後、講師講評と諸連
絡にて、終了、解散。

10月14日(土)
枝打ち

8時35分

島崎先生の山小屋に集合。
日程説明の後、早川講師の
挨拶。

8時45分

特別講師の保科先生の挨拶
と講義。枝打ちの目的に始
まり、山林経営観まで。

9時

保科先生が、持参の丸太の
輪切りサンプルを使って、
枝打ちの状態の説明と枝
打ち方法を講義。また、あ
ぶみやナタの道具も見せ
ていただく。

9時45分

これまた保科先生持参のヒ
ノキの丸太を園田さんが
チェーンソー製材。イント
ラ藤原さんが枝打ち状態
を解説。

10時5分

各班に分かれてロープのア
イ加工。口差しは、本線を
左手に持ち、解いた先端を

輪にして右手で持つてき
て、一番真ん中・二番左・
ひっくり返して…。

11時15分

小屋横のヒノキ林で、ぶり
縄木登りの練習。

12時15分

昼食。島崎先生が小屋へ。

13時

島崎先生が先ほどのヒノキ
丸太をチェーンソー製材
で柱角に。

13時10分

分乗して現場へ向かう。

13時45分

高鳥谷山の麓のヒノキ林
着。体操で身体をほぐす。

14時

保科先生による枝打ち実演
のあと、各班に分かれて枝
打ち。ぶり縄での枝打ち

は、降りる余力を考えて
ワンタッチラダーや先生
のあぶみも使ってみまし
た。

15時40分

作業を終了し、小屋へ。

16時30分

特別講師講評。諸連絡をし
て終了、解散。お疲れ様で
した。

参加者/石垣さん、石田さ
ん、石原さん、井上さん、
榎さん、大村さん、小池さ
ん、坂上さん、高野さん、
高橋さん、長田さん、堀江
さん、山本さん、吉永さん、
園田さん、長坂さん、竹内
さん

講師/保科先生、早川講師

スタッフ/川島、後藤、藤原、
坂野

『出すと伐る』 専門コース第三回開催報告

早いもので、この三日間で
今年度の専門コースも終了と
なります。春・夏と六日間伐
倒を行ってきた、伐れば出し
て使いたいと思われたかどう
か。塾生の方の希望で、今回
はまず、キャタトラ集材か
ら。しかもラジコンを使った
一人集材に取り組みました。
初日午後と二日目は雨とな
り、ワイヤーのアイ加工や
ロープのショートスブライスの
習熟となりましたが、三日
目は午前中に集材をして、
キャタトラ集材の特徴を把握

し、午後はその集材に応じた
伐倒とはどういうことが、を
考えた伐木造材の実践となり
ました。
ただ伐ることを出すことを
考えた伐倒の間にあるもの
…使用する搬出機械の特
徴から伐倒を工夫することの
意味、木の傾きと搬出方向が
違う場合に要求される技
術…など、出すと伐るを一
連で考える伐木造材には、何
を求められたでしょうか。そ
して、その実践では何がもた
らされたでしょうか。



ラジコン一人集材

専門コース第三回開催

10月5日(木)

～7日(土)

一日目

8時25分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶のあと、早速現場へ。

8時55分

キャタフト集材開始。ラジコンを使って、一人集材と運搬を交互にやってみる。

11時40分

雨が降り出してきたので、作業を終え、小屋へ。

11時50分

昼食。

13時10分

雨のため、予定を変更して、ワイヤーのアイ加工。割り差しにて。

15時20分

アイ加工を終了し、列状間伐や針広混交林の林分調



一つ越して二つ差す

二日目

8時25分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶のあと、現場へ。

8時40分

初日に続いてキャタフト一人集材。積載デッキが満載になるまで集材して、運び出しました。

12時

小屋にて昼食。

13時

午後は、集材を考

16時20分

査法などの質疑応答。終了、解散。

二日目

8時25分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶。

8時30分

今日も雨。なので、神保さんはワイヤーアイ加工の復習を、熊木さんはロープのショートスプライスを端止めに挑戦。

12時

昼食。

13時

作業再開。

14時15分

明日の作業のために、ナタを研ぐ。

15時30分

少し早いが、終了、解散。

三日目

次回以降の予定

集中コース秋の部
11月2～4日(木～土)

16時

三日間の作業を終了し、講師講評。お疲れ様でした。

参加者/熊木さん、神保さん
講師/早川講師
スタッフ/坂野

えつつ伐倒。樹の傾きと集材方向が違えばどうやって伐倒をするか。

KOA森林塾のエキスを集めた三日間です。測樹や伐木造材、そして簡単な集材をやってみます。盛り沢山になるかと思いますが、何かひとつでもお持ち帰り頂ければ幸いです。
初日は9時に、二日目・三日目は8時30分に、島崎先生の山小屋に集合です。

第十三・十四回

12月1・2日(金・土)

炭焼き・復習

移動式炭化炉を使って、できればドラム缶でも炭焼きを試してみます。材の仕込み、火入れの後は火の番です。その間は、学習会と少し早い忘年会。可能な方は、小屋宿泊で

火の番のお付き合いを。翌日は、炭出しの後、復習です。保科先生の山林見学。測量・伐木造材を行います。なお、炭出し時はマスク・タオルなどが必要です。希望者は炭をお持ち帰り頂けますので、米袋などご持参ください。8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

やま・もり 豆知識
ムササビ

島崎先生の小屋横のヒノキ、サワラ林を間伐していた地主の建石洋一さんが、知らずにモモンガの巣があるサワラを倒してしまつた事は二年前少し前の森林塾通信に書きましました。そのモモンガはメロンパン大の巣をサワラの枝に作っていた模様で、しばらくの間は倒されたサワラの枝の下に隠れて暮らしていたとのことでした。「相すまぬ!」と思つてりんごや野菜クズを置いてあげたら、特にりんごはきれいに食べたみたいだよ、と建石さん。何日後、隣の



ヒノキ林に逃げ去つたそうです。ネットで調べてみると「体長は十五〜二十センチ。夜行性・長野県では天然記念物」とありました。夜行性で、しかもわりと奥山に生息するためその姿を見るのはかなり難しいようです。

さて前回われわれが遭遇したのはモモンガより一回り大きい、夜行性で同じリス科モモンガ属の空飛ぶ哺乳類、ムササビでした。川島班が倒したスギをねぐらにしていたのでしようか。ヒヨコヒヨコと林地を走り、近くのヒノキの高さ十メートルくらいの所まで上り、そこで丸まってしまいました。バレーボールくらいのぬいぐるみ状のかたまりです。木を揺すつても全然動きません。彼にしたら、睡眠中にマイホームをぶち壊されて、さぞ迷惑だったでしょう。

見つかっていればいいのですが。



伊那市界隈。今年は春からクマの目撃情報が絶えませんが、おもに中央自動車道の西側ですが、八月三十日には伊那市の街中に現れました。十二時半ごろ、伊那弥生ヶ丘高校や伊那中学校のすぐ裏の竹やぶから出てくるのが目撃され、市の広報車が家の外に出ないよう呼びかけ、消防車や救急車も来るなど、あたりは騒然とした雰囲気だったそうです。結局KOA本社の横、通学路にもなっている石段で射殺されたとのこと。メスの推定二歳。体長は約一メートル。山からは数キロは離れているし、途中に住宅地もあるのに、どこをどう通つて来たのか、不思議です。動物がひんぱんに見られるのは自然が多い、とも言えるのですが、広域農道でキツネ、タヌキやハクビシンの轢死体を見るのは日常茶飯事です。街中に迷い込むクマのニユースを聞くにつけ、賢い棲み分けが出来ないものかと思つてしまいます。

リレー通信

第三の人生に！ 堀江 隆雄



さいたま市より通年コースに参加させて頂いている堀江です。研修で毎回教えて頂く事は山守りを目指す？？私にとって なるほど と思う事ばかりです。山仕事での貴重な情報と技術を体得させて頂き、島崎先生・早川さん・スツップの皆様に感謝しております。

入塾のきっかけは、団塊の世代に生まれ高度成長の中、競争の世界で人生を過ごして来た私にとって、子育ても終わり定年後は第三の人生として、何か社会のお役に立つ事



が出来ればいいな等と友人と酒を酌み交わす度に話合う中で、環境問題のひとつとして山が手入れされずに荒れている！手入れされない林の下には太陽光が当たらない為、下草も生えないので大雨が降ると表土が流され川が汚染されている、日本の最後の清流と言われる四万十川も例外では無いと聞いた時、これだ！

し、いざハローワークに行つて求職の申込みをしても林業については皆無と言っても良いほどです。職業訓練も有りません！でも諦められない・・・と考えていた時『山造り承ります』の中のKOA森林塾を思い出しネットで検索し応募し入塾に到つた次

第です。

さて私が生まれて九歳まで過ごした両親の実家は、栃木県との県境の村で昨年までは茨城県那珂郡美和村(現：常陸大宮市)という山村に有ります。幼心に季節毎に山にはワラビ・ゼンマイ・ウド等の山菜や木いちご・グミ・くり・アケビ等の果実、また色々なきのこ・自然薯と言つた自然の恵みが豊富に有つた様に覚えてあります。でも今は広葉樹林も手入れが行われていない為、篠や笹類が繁茂し人が容易に立入る事も出来ない様な有様。又広葉樹を伐つて人工林にした杉や松の林も材価の下落と過疎化による高齢化によつて手入れされず昏問でも薄暗い林がいたるところに見受けられる日本の里山の標準的な荒れた状態と言えるところに思

います。当然、夏休みに泳いだ川も山に水源涵養力が無くなつて来ている為、水量が少なくなり、川底の石も泥の中、棲む魚も変わりました。この様な現象は日本のいたる所で見受けられる事だと思

います。いま森林の大切さは国民の全てが承知している事と言つても過言ではないと思

います。森林が海を育むので漁業を生業とする人たちが山に植林を行い、森林浴で街の生活に疲れた人たちは心癒され、また地球温暖化の原因物質で

あるCO2も国民の共有財産である。森林の活性化によつて依り多く吸収される事と成りま

す。補助金に頼らず自立出来る林業、労働に見合った収入が得られる林業が構築されれば若い労働力も容易に確保出来、将来に渡り『みどり豊かな森林・美しい国日本』が維持出来る行くと考えますが、国民共有の財産である森林を管理する方法をどなたか真剣に考えて頂けないでしょうか。今は多くの企業・団体が森林の大切さを認識し、再生・活性化に取り組んでいると聞きますが、なお依り一層の森林の活性化、また手遅れに成り掛けている人工林・天然再生林の資源回復・活性化の為に政治・行政のさらなる関わりが重要と考えます。勝ち組・負け組だの、なんてそんな小さな事等、どうでも良いじゃありませんか。生まれ育つた国を愛せない人間なんて居るはずが有りません。日本に生れて本当に良かった！日本に育つて幸せだ！と国民の誰もが実感出来る『みどり豊かな森林・美しい国日本』を近未来に実現する為！！

最後に、団塊の世代の私に活動する時間は多く残されて



はいないと思

います。身体は綾小路君磨呂の漫談の通りで上向きの物は何もありません！でも気持ちだけは万年青年のつもりなので気持ちで引

張つて行けば十年から十五年位は使える？？かと思

います。日本の森林の活性化の為、二十一世紀に生きる子供たちの為に、仲間や後進も探しながら山守り(炭焼き含)を目指し百年後の森林の様子を夢見ながら活動して行きたいと考えています。気持ちだけが先走り取り留めの無い内容で申し訳ありません。今後とも宜しく御願

マツタケの続報です。今年はやはり気象条件が良かったため、伊那谷では豊作だったようです。ただし、まだこれから、と思つてた矢先、突然終わってしまったというのが今年の特徴で、十月十日位を境に出なくなつてしまったようです。

そして会の山はというと、毎年出ているシロについては豊作でした！確認できたマツタケの本数は十二本。昨年の二本に比べるとその数六倍。

例年、他より遅く出る傾向のあるシロですので、もう少し出るかもしれない。ただ、狙いとしている新しいシロの確認はできておらず、その点はまた来年に持ち越しとなりそうです。

今回、このうちの何本かは収穫せず、かさが開き、腐るまでそのままにして置いて、マツタケの胞子を周辺に飛ばしたいと思つています。これは、置きマツタケ」と言い、シロを増やす有効な手段なのですが、すぐに成果となつて現れるとは限らないのが難しいところ。

整備を始めてから少なくとも五年かかると言われるマツタケ。なによりも必要なのは根気の上です。

「イントラ 川島」



おわりに

秋本番。今年は気温も順調に下がり、きのこは豊作の様。仕事が手につかなくなりそう？

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp